

近年のマス・メディアの発達には目を見張るものがある。新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・映画等の情報媒体が、国民の生活の一部となり、現代社会が円滑に機能するためには、必要不可欠な存在となつていい。そういったマス・メディアの発達、また、その国民生活への浸透性を背景に、マスコミを第四の権力と呼ぶことさえもある。しかし、多くの場合、情報の伝達はマスコミの側から情報の享受者に一方通行の形でなされ、享受者は、

その流される情報にたいして受動的になつてゐる。このようないふな場合、ある危険が生じる。すなわち、マスコミ側の意向をそのまま国民に引き継がせることのが可能となるのである。極端な話、ある問題に対し、マスコミ側が Yes の立場を前提として、報道を続けるならば、その享受者たる国民はその問題について、Yes の立場を肯定する判断材料しかえられず、公正な判断ができなくなつてしまふ。そのようなマスコミの、情報享受者

御意見番

的に対する、いわば、右向け右的な形態を防止するために、公平原則というものがある。この原則は放送法第四十四条三項で定められている原則である。放送電波の特性から、公共的に重要な意見が対立する問題について、多角的な視野に立つて公平に論点を明らかにせねばならないとするものである。しかし、マスコミの現状を見

てみると、全てがこの原則を厳守しているとは言い難い。ニュース番組を見ていても、ある重要な問題について、明らかに公正さを欠き、Yes Nonoどちらか一方に片寄つた報道をよく目に見る。確かにキヤスターが自分の意見を述べることはジャーナリズムの一環であり、否定する気はない。しかし、その際には何らかの理由づけが必要である。情報享受者の判断材料となる根拠が必要なのである。マスコミの報道の自由は、

憲法二十一條の表現の自由に含まれ、それに対する公権力との干渉は許されない。それゆえ、報道内容についてマスコミの有する裁量は大きい。だからこそ、マスコミ内部からの変化が必要なのである。マスコミの提示する公正な情報をもとに、今度は、情報享受者たる国民がその情報をもとに個人的判断をする。そのような国民の意志決定の補助的役割こそが、本来あるべきマスコミの姿ではなかろうか。

新年あけましておめでとうございます。平成四年も終え、新しい気分で平成五年に向かえたことと思います。今年が皆にとつてよい一年になるようMPSスタッフ共々心から願っております。

さて、正月というのは年始めであるのとともに、受験シーズンが本格化する時期でもある。中三生には高校入試・中二生にはア・テストといつ大事な試験があと1・2ヶ

月と迫っている。いつまでも正月気分をひきづらないよう、早いうちに気持ちの切り替えをしてほしい。

M P S では、この大事な時期に、中三生・中二生の勉強を強力にバックアップすべく、毎年通り、高校入試、ア・テストの対策授業を実施する。それぞれの担当スタッフについては以下の通りである。

スタンバイ
OK !?

対策授業

スタイト

高校入試、ア・テストの重要性を今一度、再認識し、自分に厳しく勉強に励んでいいつてもらいたい。

先輩より
アドバイス

国語・数学	三宅先生
英語	伊藤先生
社会	鍵和田先生
理科	上村先生
国語・実技	三宅先生
英語	鍵和田先生
数学	秋山先生
・社会	上村先生
理科	

なければならぬ。先生や両親などからのプレッシャーに負けることなく、残り日数、自分の現状を考えた上で、あせることなく計画的に学習を進めてもらいたい。MPSでも授業、テスト等によりできる限りの援助をするつもりである。心身ともに万全の状態で本番に臨めるよう頑張つてもいい。伊藤和生の健闘を祈る。

のうえ、ちょ一負けず嫌いなので友達が頑張っているのをみると、いつもそう勉学に励み、ア・テストは思ったよりよい点がとれました。(H・K先生には負けたけど……)ア・テストがよかったです。この調子でやれば受験勉強なんかしなくても余裕かと思ついたら三の二学期、応援団や城南祭の学年劇やら部門長やらたくさん役をもつてしまい(ちよつとした言い分)、中間、期末とも三年間で一番悪くてやはり受験勉強をしなければならなかつたわけです。塾のア・テストも受験も、塾の先生は勉強しろと言つてくれます。が勉強するのは自分で成功するか失敗するかの力がです。特に中二生H・K先生に負けない。ようく(まだ負けず嫌い)。古賀亜矢子

学校などで話がもちこまれるほど近くなつたA・テスト。それは高校に入る時の資料としてもみられるほど大切なテストです。だからこそ頑張らなくてはなりません。しかし今の僕ではよい点はそれそうにもあります。なぜなら僕は学校から帰るとテレビを見たり遊んだりとまったく勉強をしません。ゆいいつするといえば学校や塾の宿題ぐらいです。A・テストは範囲がひろいのでテスト直前だけやる成績が安定してきているので普段からの積み重ねがとても大切だと思います。今の僕の成績状態をみると一年の時よりは成績がよくなるようになります。そして学校の授業や塾の対策授業で取り組み、そして自分が満足できるようになります。そこで自分はしつかりとした態度で授業には取り組み、そして自分が満足できるようになります。その後およそ三ヶ月頑張つていきたいです。

私は、ア・テストなんてものには私の頭にはもうなくなつていて一生うけないものと思つていきました。それが、「なるべくなる、なくなる。」と言つながら、とうとう私も二年生

あーどうとう起きてしまつた。神奈川生まれの人達なら中二になれば誰でも必ずやるといふ(あたり前のことですが)あのア・テストが!来年はどうなるかわからぬ、ようなことを言つてゐますが、私達には関係ないことです。悲しいのか嬉しいのかよく分かりませんが、とにかく今の私のこの生活状態ではちょつと:いえ、かなり危ないです。すごく自分でもドキドキしています。そもそも今まで、部活一筋で(のわりにはたいしてうまくないけど)私はかりに部活に燃えていいのでは勉強の方に気が向かなくなつていいのです……などといふわけです。わけをしている場合ではないのですが、まア一年の入塾當時に書いた私の塾に入つての目標みたいなものにそつとうな事を書いてしまつたし、そろそろ(といつてももう遅い)本当に頑張らなければいけないときなので本当に本当に頑張つてア・テストに臨みたいです。

入試、ア・テストに向けて 僕の今の心境

はあ：まつたく書く前からため息が出ちゃいますよ。よ
りによつて「高校入試二ヶ月前にひかえての心境」なん
て題で私に書かせるなんて：ヒ
ドイ！これじやまるで私に勉
強しろといつてるようじやな
いですか。そろそろ始めない



多くの人が、「寒い」と口癖のように言ってしまう季節（冬）がやって来ました。イコール、受験の季節でもあります。そう、この僕も受験生と呼ばれるのです。受験生と聞くと一見かっこ良く聞こえますが、（僕だけでしょうか）ちょっと裏を開けば、一日中勉強しなくてはならない過酷な生活が待構えているのです。差し当たり、今は入試に向かつて、ひたすら勉強することが一番なのではないか：と心の中で思いつつ、勉強するといふことは、なんとも憎らしいこと。だとも思える今日此の頃です。まあ、愚痴をこぼしてしまってよいがないので、自分で後悔しないよう精一杯頑張りたいです。二月二十三

今、僕が一番あせつてゐる教科は、社会科だ。三年間の全範囲なので、一年の時にやつた地理、二年の時にやつた歴史は、ほとんどと言つていた。何いくらい覚えていなかつた。過去四年間の入試問題をやつても、分かるのは公民くらいなものだつた。かなりピントなことが分かるであろう。話は変わらるが、この頃、「○×君、ちゃんと勉強してくる?」といつもまとわりついてくる、担任のようで動物「（ブルドック）」のような奴がいる。このような奴がいるから学校がつまらなくなつてしまふのだ。まつ、入試のほうは、自分の力が十分發揮できよう。頑張りたいと思いま改札口をぶつ壊す男

になりました。こんな私なので、もうあと二、三ヶ月しかないのに中間、期末テストの勉強におわれて何もやつていません。あせるいっぽうです。学校の先生やおねえちゃんに、いつ頃から勉強するのか聞いたら、なつなつなんと十二月からやれと言されました。

「そんなに早く勉強しても、忘れちゃうじやん。」と言つたら、「じやない」とまとめきれないんだよ。」と言われました。私はテスト一週間前から勉強するのにもうんざりしているのに、二、三ヶ月前からやるなんて死んじやうよおもて。と思いまして。でも、もう何人の人がうけてきたアテストなので、私もとりあえずたくさん勉強して、いい成績をおさめたいです。

とヤバイと思つていますよ
りやあ、けど私の目と手が拒
否反応をおこしてですねえ：
（あーみぐるしい言い訳だ。
あつそーいえばキヤンプ！私
はやつとの思いでおかーさんで
を説得し、（本当に大変だん
たんだ）行けるようになつた
のに中止になつてしまい、夏
休みには二kgほど太つたん
ですよお。私は勉強する気力が
あくなくなつちやいきましたよ。
あー話が脱線しちゃいました
ねぇ。もとにもどしてつと、
えーいちおう最後はまじめに
？しめくくりましょう。
：もうあとには戻れません。
だからあとは全力を尽くし、
生あつてますか？」春には笑
つていいと思います。

日までの二ヶ月たらずの間は一年前に体験した、ア・テス
トよりもきつそ�です。窒息死しそうな気もします。でも
苦しまなければ、後の楽しみが半減してしまうので、板橋
おっさんS・M君や、最近自動改札をぶつ壊した話をした
り、一年間で五キロ太ったと先月号の新聞に書いたH・Y
君をはじめ、数多くの仲間と頑張つていきたいです。

全力を出し切った

住吉 正行

去る十二月二十二日、降水量0%の晴天のもと、酒匂川P.S.年間行事の一つである、M.I.P.マラソンが行なわれた。当日、男子十七名（一名欠席）で、女子十三名が参加。スタッフでも伊藤先生と田中先生が参加し、二十一kmの道のりを一名のリタイアも出さず、参加者全員が無事完走した。やはり、普段これほど長い距離を走る機会がなかなかないため各自相当疲れたようである。走り終えた伊藤先生の「もう限界だ」という言葉が全てを物語つて、いるように思えた。その中で、輝かしい成績をおさめた男女上位三名の感想を以下に示すとしよう。



来年も走ろう！ 皆さんに一言。午後ティーの一人・五人を一人でほとんどなんになりました。スママ吉正行

やればできる、そう思つて
僕は毎日陸上部で大会を目指す

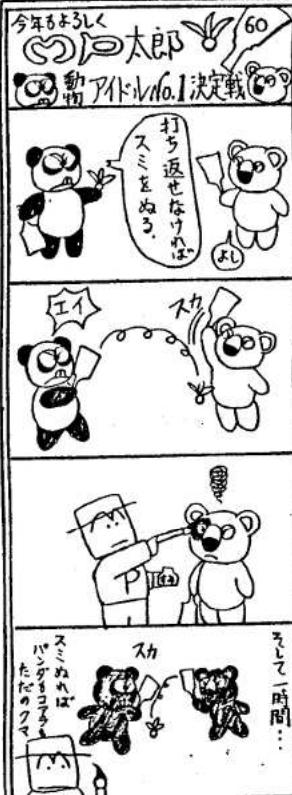
男子の部二位 鈴木洋一郎
僕はこのマラソンは、始めたから最初はコースを間違えないかとか、ちゃんと最後まで走れるか心配だつた。でも、ぼくは走ることが好きだから、このマラソンが楽しみだつた。それに二十一kmといふ長いマラソンをしたことないのに、どれだけ長くどれだけ大変なのかとてもわくわくしていいた。だからとても当日がくるのが楽しみだつた。そして当日になつて板橋に集まつた時には、まだ二十一kmを走るという実感がなかつた。でも頑張るしかないと思つた。苦しいのは皆同じだからしつかり最後まで走ろうと思つた。そして、この二十一kmを走つて気持ちを入れ替えて勉強もしつかりやろうと思つた。からそのためにも一生懸命にだま歩き。途中で苦しくなつて歩き、そうにもなつたが、すぐ後には皆も走つていることを思い出し、一人にも抜かれなかつた。二位になれなかつた。そして今度は一位嬉しかった。そこで僕は二位になれた。すごく嬉しかった。そして僕は二位になれた。そこで僕は二位になれた。すごく嬉しかった。そこで僕は二位になれた。



して頑張つてきました。その前に何回か大会に出た事がありますがいつも僕は他の学校の人に負けてしまいました。その悔しさときたらとても大きく大きなものでした。しかしながら大体の悔しさは心の奥にしまっておきました。「今日の悔しさは明日への希望と勝利へ導く」そう思った僕は上を見てその後の練習とを頑張つてきました。ハーフマラソンで上位三位に入つたその喜びはとても大きかったです。しかしM.P.Sという小さな中で三位に入つたからといって笑顔を見せたはならないのです。まだ上には上がたくさんいるのです。彼らを抜くために僕はこれからも希望を持ち続け頑張つて行こうと決心しました。

私は、始めてのマラソン大会で、実は私の友達と、軽い気持ちでやろうと思つていいたので、実際やると本当に疲れちゃつて、まだ十二kmもいかないのに、顔が随分、ひきつっちゃつて、「もうダメ。」などきめつけ、ぐだぐだして、いたら、中学三年生の先輩が、「二十九kmつて大変だよね。」と私の気持ちをしつていったかのように声をかけてくれ、私は、いかえすだけでせえいっぱい

女子の部優勝 酒井 香
涙賞。やりました！二年連続一等
がちょうどよぎれてしまって、去年は道が分からなくて、
いたが、今年は前を走つていて、よ
り一層分からなくなつてしまつたが、
たとおバカなことをしました。
たスタッフを必死に頼りにし
て、頑張りました。川沿いだ
から、風がメチャクチャ
強くて、おでこ全開で恥ずか
しかったです。それとやつぱ
り走つている時は辛かつたで
すね。四時間ぐらい走つてある
のがあるからでしょう。嫌いなさ
がそれほどあります。走つて
るほどに、最高の気分にな
れます。でも私はマラソンけれ
ど好きです。



心地よく走れたことであろう。
記録的に男子についていえば、ハイレベルといわれた昨
年に比べると全体的に劣るが、そんな中での中二生の頑張り
は素晴らしいといえよう。また女子についていえば、昨
年に比べ参加者が減ったにも関わらず、三時間を超える者

なのに道とかも随分教えてくれて、すつごく嬉しかったです。それにたくさん（女の子）の人にすれ違う時にお互がいに声をかけ励まし合いそれが中学、高校生の学年の違いがあっても、走つて深い交流を持ちは一緒だから深い交流もてるのだと思つた。走つてゐる時、「来年は絶対、やりたくない。」とも思つたけど、今ならやつてもいいと思う気がします。しかしこのマラソン大会の「ダメ。な所は、次の朝の歩き方が、スロ一になれる事! まともにあしまつた。友達に笑われて、

お願いだから、今は私のボンレスハム：もとい、太ももをさわらないで下さい。もう年くせに無理して、超筋肉痛状態なんだから。でも三位奇跡です。顔の可愛い順位なんだケド（はあ？）皆さんマラソンは体の大きな人（早い話がデブつてやつですか）が遅いとは限らないことがご理解いただけたでしよう。（と、いう事は私はデブなの

總評 実行責任者

「ああ？…うおお。」：と今はギヤグつていらるケド走つてゐる時は死ぬかと思つて：ませんでした。昨年は、「やだなあ。」と思つて走つたから順位も悪かつたので、今では、年の微笑をうかべながらはありました。端から見れば怪しいヤツだったかも？まあそれは顔の美しさで力バーグ。
「へへへ？」やつぱ何でも楽しんでやらなきやですね。そしてエネルギー源を携帯して疲れたる補給するという。
しかし私は調子にのつてチヨコを食べ過ぎて吐きまくつてました。私の後に走つた人は踏んでたかも？：ラツキー！
ですね。きわめつけは尺八だあ。（わかる人はわかる）それらが私の勝因だったのではないでしようか？

第十二回ハーフマラソン全記録

《男子の部》

順位	名前	学年	タイム	順位	名前	学年	タイム
1	住吉 正行	3	1° 39'	1	酒井 香	3	2° 17'
2	鈴木洋一郎	2	1° 41'	2	鈴木 好	1	2° 20'
3	広瀬 隆	2	1° 44'	3	足利 千博	4	2° 30'
4	住吉 俊和	2	1° 47'	4	山田加奈子	3	2° 40'
5	鈴木 成年	2	1° 48'	5	岡本 恵美	4	2° 43'
6	香川 浩二	2	1° 48'	6	中島由起子	3	2° 53'
7	伊藤浩史朗	1	2° 09'		松澤 亜季	3	2° 53'
8	吉岡 弘泰	3	2° 14'	8	永松 里美	1	2° 57'
9	杉野 伸	3	2° 17'	9	三宅弓子	3	3° 00'
10	三宅 晃徳	2	2° 17'		高橋 麻美	3	3° 00'
11	白井 宏典	1	2° 19'		葛前アヤ子	3	3° 00'
12	山本 是房	1	2° 19'	12	山口 寿子	4	3° 03'
13	山下 裕寛	1	2° 27'		古賀アヤ子	4	3° 03'
14	藤井 淳史	1	2° 27'				
15	佐藤 陽	1	2° 45'	スタッフ	伊藤 和生		2° 42
16	杉崎 正	2	3° 15'		田中 岳人		1° 57

編集後記

いやー、昨年の年末は非常に忙しかった。本当に猫の手も借りたいほどだった今回担当は新聞初挑戦の秋山でした。記事を頼んだのに載せられなかつた人、本当にご免なさい。次回は、山を愛する男、田中先生です。